

# 国 語

## I 改訂の要点

中学校までに培われた国語の能力を更に伸ばし、社会人として必要とされる国語の能力の基礎を身に付けることができるようにするとともに、生徒一人一人の能力・適性、興味・関心に応じた多様な学習が行われるよう、各科目の構成及び内容が改善された。

### 1 教科の目標

高等学校国語においては、言語の教育としての立場を重視し、社会人として生きるために必要とされる国語の能力の基礎を身に付けるという基本的な理念を継承しつつ、「想像力」を伸ばすことについての記述を新たに加え、次のように定めた。

「国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。」

高等学校段階における「想像力」には、物事の微妙なところまで感じ取る心情的な側面のみならず、根拠に基づき先を見通すなど、論理的な側面もあること、そして、そのような「想像力」を一層発展させる必要があることを明示している。なお、想像力を伸ばすことと心情を豊かにすることを併せて示すことで、豊かな感性や情緒をはぐくむ指導を一層重視することになる。

### 2 科目の編成

科目は次の6科目に改め、「国語総合」を共通必修科目とし、他の5科目は、「国語総合」の内容を、科目の性格、特色に応じて発展させた選択科目とした。そして、「国語表現Ⅰ」及び「国語表現Ⅱ」の内容を再構成し「国語表現」とするとともに、「現代文A」を新設した。

改 訂			従 前	
科目名	標準単位数		科目名	標準単位数
<b>国語総合</b>	4	改善 ←	<b>国語総合</b>	4
国語表現	3	再構成 ←	<b>国語表現Ⅰ</b>	2
現代文A	2	新設 ↓	国語表現Ⅱ	2
現代文B	4	改善 ←	現代文	4
古典A	2	改善 ←	古典講読	2
古典B	4	改善 ←	古典	4

国語総合 共通必修科目

国語表現Ⅰ 選択必修科目

### 3 各科目の内容とその取扱い

#### (1) 内容の改善の要点

##### ① 内容構成の改善

「国語総合」の内容については、言語文化に関する指導を重視する立場から、小学校及び中学校と同様に「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に改めている。

## ② 言語活動の充実

各科目及び領域の内容の(1)に指導事項を示すとともに、これまでは内容の取扱いに示していた言語活動例を内容の(2)に位置付け、再構成している。これは、内容の指導に当たって、(1)に示す指導事項を(2)に示す言語活動例を通して指導することを一層明確にするとともに、各教科・科目等における言語活動の充実に資するためである。

## ③ 言語文化に関する指導の重視

共通必履修科目である「国語総合」に、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を設けるとともに、我が国の伝統と文化、とりわけ言語文化に対する理解を深めることを主なねらいとする科目「現代文A」、「古典A」を設けている。

## ④ 学習の過程と系統性に配慮した内容の改善

中学校までの指導との円滑な接続を図り、高等学校において発展的に指導できるよう、学習の過程や系統性に配慮して内容を改善している。

## ⑤ 読書活動の充実

読書に関する指導については、学校図書館や地域の図書館などと連携し、読書の幅を広げ、読書習慣を養うなど、生涯にわたって読書に親しむ態度を育成することや、情報を使いこなす能力を育成することを重視して改善を図っている。

## ⑥ 漢字の指導

平成22年11月30日付けの内閣告示をもって常用漢字表が改定され、従前の1,945字から2,136字になり、中学校学習指導要領の一部が改正された。このことを踏まえて、常用漢字の指導については、中学校における指導との系統性に注意しながら指導する必要がある。

「国語総合」では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に、従前と同様、常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるように指導することとしている。

漢字を読むことについては、中学校修了までに常用漢字の大体を読むこととしているが、「国語総合」の教材の中に新しく出てくる漢字の音訓を学習させることは言うまでもないが、中学校で学習済みの漢字の音訓についても注意を向けさせ、その習熟を図る必要がある。

漢字を書くことについては、小学校の学年別漢字配当表に示されている1,006字の漢字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れることとしている。

「国語総合」では、中学校における学習の上に立ち、常用漢字の音訓を正しく使えるようにするとともに、主な常用漢字が文脈に応じて書けるようになることを求めている。

## (2) 各科目の要点

### 「国語総合」

#### ① 目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

#### ② 内容及びその取扱い

- ・ 従前の「国語総合」の内容を改善し、教科目標を全面的に受け、総合的な言語能力の育成をねらいとした共通必履修科目で、「国語総合」を履修後に選択科目を履修するこ

とを原則としている。目標に、想像力を伸ばすことを新たに加えている。

- ・ 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の3領域1事項から内容を構成している。
- ・ 話すこと・聞くことを主とする指導に15～25単位時間程度、書くことを主とする指導に30～40単位時間程度を配当し、表現する能力の育成を引き続き重視するとともに、学校や生徒の実態に応じて弾力的な指導を可能にしている。また、指導事項において、学習の過程を一層明確に示している。
- ・ 読むことの指導では、読む能力を育成するとともに、読書の幅を広げ、読書の習慣を養うことに配慮している。読むことの指導のうち、古典と近代以降の文章との授業の割合は、おおむね同等とすることを目安として、生徒の実態に応じて適切に定めるようにしている。古典における古文と漢文との割合は、一方に偏らないようにしている。古典の教材には、古典に関連する近代以降の文章を含めることを明示している。
- ・ 新たに置いた〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕では、我が国の文化と外国の文化との関係に気付き、伝統的な言語文化への興味・関心を広げることを示すとともに、従前、〔言語事項〕として示していた言葉のきまり、言葉の成り立ち、表現の特色、言語の役割、文や文章の組立て、語句、語彙、表記、漢字の読み書きに関することも取り上げている。
- ・ 各領域において、実践的な指導の充実が図られるよう、話し合いや討論、発表をする、説明や意見の文章、随筆を書くなどの言語活動例を内容ごとに3～4項目、計10項目示している。
- ・ 教材は、各領域の能力などを偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成をねらいとし、生徒の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げることとしている。また、言語活動が十分行われるよう教材を選定することとし、教材選定の具体的な観点を9項目示している。
- ・ 古典の教材を理解しやすくするための配慮事項は、従前、「古典」に示されていたが、今回の改訂では「国語総合」に示されており、古典に関する指導の一層の充実を図ることが求められている。

古典の教材については、表記を工夫し、注釈、傍注、解説、現代語訳などを適切に用い、特に漢文については訓点を付け、必要に応じて書き下し文を用いるなど理解しやすいようにすること、また、古典に関連する近代以降の文章を含めることとしている。

## 「国語表現」

### ① 目 標

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

### ② 内容及びその取扱い

- ・ 従前の「国語表現Ⅰ」及び「国語表現Ⅱ」の内容を再構成した選択科目である。目標に、想像力を伸ばすことと、国語の向上を図る態度を育てることとを新たに加えている。
- ・ 話すこと・聞くこと及び書くことを中心として内容を構成し、情報を基に自分の考えをまとめること、相手の立場や異なる考えを尊重して話し合うこと、論理の構成や描写の仕方を工夫すること、表現の効果を吟味したり文章を読み合って批評したりすることなどを重視している。
- ・ 目的や場に応じて言葉遣いや文体を工夫すること、国語における言葉の成り立ち、表現の特色や言語の役割の理解を深めることなどを取り上げている。

- ・ 討論する、解説や論文をまとめる、小説や実用的な文章を書くなどの言語活動例を5項目示している。
- ・ 生徒の実態等に応じて、話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて指導することができるとしている。
- ・ 教材は、思考力や想像力を伸ばす、情報を活用して表現する、歴史的、国際的な視野から現代の国語を考えるとといった学習活動に役立つものを取り上げることとしている。

## 「現代文A」

### ① 目標

近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。

### ② 内容及びその取扱い

- ・ 新たに置いた選択科目である。
- ・ 近代以降の言語文化についての課題を設定し、様々な資料を読むことを通して探究する指導事項を設けている。
- ・ 外国の文化との関係なども視野に入れて文章の内容や表現の特色を調べる、文章を読み比べて話し合ったり批評したりするなどの言語活動例を3項目示している。
- ・ 教材は、近代以降の様々な文章の中から、特定の文章や作品、文種や形態などについて、まとまりのあるものを中心として適切に取り上げることとしている。

## 「現代文B」

### ① 目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

### ② 内容及びその取扱い

- ・ 従前の「現代文」の内容を改善し、読むことを中心としつつも総合的な言語能力を育成することをねらいとした選択科目である。目標に、適切に表現する能力を高めることと、国語の向上を図る態度を育てることを新たに加えている。
- ・ 文章を批評することを通して考えを深め、発展させること、目的や課題に応じて情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現することなどを重視している。
- ・ 文章を読んで、人物の生き方や表現の仕方について話し合う、課題について調べたことを報告書や論文集に編集するなどの課題探究的な言語活動例を4項目示している。
- ・ 教材は、近代以降の様々な種類の文章とし、論理的な文章や文学的な文章をはじめ、現代の社会生活で必要となる実用的な文章も取り上げることとしている。

## 「古典A」

### ① 目標

古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

### ② 内容及びその取扱い

- ・ 従前の「古典講読」の内容を改善した選択科目である。
- ・ 伝統的な言語文化についての課題を設定し、様々な資料を読んで探究する指導事項を設けている。

- ・ 音読、朗読、暗唱をする、古典を読み比べて話し合うなどの言語活動例を3項目示し、古典に触れる楽しさを味わえるようにしている。
- ・ 古文と漢文の両方又はいずれか一方を取り上げることができるようにしている。
- ・ 教材は、特定の文章や作品、文種や形態などについて、まとまりのあるものを中心として適切に取り上げるようにし、古典に関連する近代以降の文章を含めることとしている。

## 「古典B」

### ① 目標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

### ② 内容及びその取り扱い

- ・ 従前の「古典」の内容を改善した選択科目である。
- ・ 古典を読んで思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること、古典を読み味わい作品の価値について考察することなどを重視している。
- ・ 古典を読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること、課題について調べたことを発表したり文章にまとめたりすることなどの課題探究的な言語活動例を4項目示している。
- ・ 古文及び漢文の両方を取り上げるものとし、一方に偏らないようにしている。
- ・ 教材は、言語文化の変遷についての理解に資するものを取り上げることとし、必要に応じて古典についての評論文などを用いることができるようになっている。

## Ⅱ 実施上の留意点

### 問1 「国語総合」を共通必修科目にした理由と、科目を開設する上で留意すべき点は何か。

今回の改訂で共通必修科目を置くこととなったのは、中央教育審議会答申で「学習の基盤であり、広い意味での言語を活用する能力とも言うべき力を高める国語、数学、外国語については、現在選択必修となっているが、義務教育の成果を踏まえ、共通必修科目を置く必要がある。」と提言されたことによる。この趣旨を踏まえ、「国語総合」を共通必修科目とし、高等学校国語における指導内容の共通性を重視することとなった。

「国語総合」については、今回も履修する学年は特に示していないが、この科目が、共通必修科目であること、教科の目標を全面的に受け、内容の構成も3領域1事項とするなど中学校との接続を重視し、高等学校における国語の基礎・基本を身に付けさせることをねらいとしていること、他の選択科目は「国語総合」を履修した後に履修するようにしていることなどに留意して、共通必修科目の履修学年や選択科目の履修順序、履修学年などについて十分な検討を行い、生徒の特性や学校の実態等に応じた教育課程の編成や指導計画の作成が行われるようにする必要がある。

選択科目については、「原則として『国語総合』を履修した後に履修させる」としているだけで、選択科目相互の履修順序は示していない。ここで「原則として」としているのは、例えば、「国語総合」を2以上の連続する年次にわたって分割履修するような場合に、2年次目においては、選択科目を同時に履修することができることを可能とするものである。

**問2 各選択科目の指導事項について、「国語総合」の各領域等との関連はどうなっているかを示してほしい。**

科目構成の上から高等学校国語における6科目の関係をみると、教科の基本的な科目として、総合的な言語能力を育成することを目指す「国語総合」が共通必修履修科目として置かれている。その他の選択科目は、「国語総合」の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の3領域1事項のそれぞれについて、各科目の性格や特性に応じて深化、発展を図る形で配置されている。したがって、選択科目の指導計画の作成に当たっては、「国語総合」の各領域や事項との十分な関連を図る必要がある。

各選択科目の内容の(1)に示されている指導事項について、「国語総合」の領域等との関係を図示すると、次のようになる。

「国語総合」の領域等との関連からみた各選択科目の指導事項

国語総合	A 話すこと・ 聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	〔伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項〕
国語表現	(話すこと・ 聞くこと)	(書くこと)		(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項)
現代文A			(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項)
現代文B	(話すこと・ 聞くこと)	(書くこと)	(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項)
古典A			(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項)
古典B			(読むこと)	(伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項)

(太線枠は、各選択科目において、より指導の中心となるものを示す。)

基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力の育成、主体的に学習に取り組む態度の涵養<sup>かん</sup>など、生徒の確かな学力の育成という学習指導要領の趣旨を十分に生かした指導を行うためには、こうした科目や学校設定科目を適切に組み合わせ、学校や生徒の実態等に応じて多様な選択ができるようにすることが大切である。

### 問3 今回の改訂において「A」、「B」科目を置いたのはどのようなねらいがあるのか。

今回の改訂では、生徒の多様性に対応するとともに、言語文化についての指導を重視するため、現代文に関する科目と古典に関する科目が、それぞれ2科目となった。

A科目とB科目では、科目の性格や特色が異なり、A科目は言語文化の理解を中心的なねらいとし、B科目は読む能力を育成することを中心的なねらいとしている。したがって、「国語総合」を基盤として、その上に深化、発展させている内容が異なるのであり、A科目が易しくて、B科目が難しいということではなく、また、順序性も示していないので、生徒や学校の実態に応じて適切に選択することができる。

例えば、「現代文A」は、読むことや、言語文化と国語の特質に関することが中心であるが、「現代文B」は、読む能力や、思考し、表現する能力を高めるなど、総合的な言語能力の育成を目指すこととなっている。したがって、「A」と「B」は、従前の「I」と「II」のように、「II」を付した科目は「I」を付した科目を深化、発展させたものという関係ではないことに注意する必要がある。「国語表現」を別途選択していたり、読むことに重点を置き、言語文化の理解を目指したりするのであれば、「現代文A」の選択が適切である。

「古典B」には、科目の性格から伝統的な言語文化の内容が入らないわけにはいかないで、「古典A」、「古典B」で重複もある。「古典A」は、「古典講読」を改善したもので、「国語総合」で育成した古典を読む能力を用いて、伝統的な言語文化について探究し、その理解を深めることに重点がある。一方、「国語総合」で育成した古典を読む能力を、一層伸長することに重点を置くのが「古典B」である。興味・関心、必要の度合いなど、生徒の実態に応じて選択させる必要がある。

### 問4 言語活動の充実を図る上で、どのような点に配慮することが大切か。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得や、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成の基盤となるのは、言語に関する能力である。言語は論理的思考だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心をはぐくむ上でも、言語に関する能力を高めていくことが求められている。

このような活動の中心となるのは国語科である。国語科の指導においては、各教科・科目等における言語活動の充実資するという視点を常にもつ必要がある。特に、課題探究的な内容をもつ指導事項や言語活動例で、そのことを強く意識し、国語科の指導と、各教科・科目等の指導とが適切に連携して行われることが大切である。そこで、国語の各科目の指導と評価の計画の中に、他の教科・科目等の指導との関連を明確に位置付ける必要がある。

生徒に求められることは、自分の言葉についての関心や理解を深め、社会人として必要とされる言語に関する能力を幅広く身に付け、言葉を通して好ましい人間関係を形成、維持していく力を身に付けていくことである。そのような力を身に付けていくためには、国語科の指導を中心としながらも、学校の言語環境や指導体制を整えて、学校全体の教育機能を発揮しながら生徒の言語活動の充実と適正化に向けて取り組んでいくことが必要である。

また、言語活動の充実資するため、各科目の「内容」の(2)に示されている言語活動例は、従前の学習指導要領に比べ、記述がより具体化されて5項目増え、詩歌・随筆の創作や説明・描写に関する事項、文学作品の創作・鑑賞事項、古典の読み比べの事項などが新設されている。

なお、内容の(2)に示された言語活動例は、中学校までも含めて既に指導されているものである。また、例として示されているので、これらのすべての活動を行わなければならないものではなく、それ以外の言語活動を取り上げることも考えられる。

次は、学習指導要領で示されている言語活動例一覧である。

## 言語活動例一覧

	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと
国語総合	<p>ア 状況に応じた話題を選んでスピーチしたり、資料に基づいて説明したりすること。</p> <p>イ 調査したことなどをまとめて報告や発表をしたり、内容や表現の仕方を吟味しながらそれらを聞いたりすること。</p> <p>ウ 反論を想定して発言したり疑問点を質問したりしながら、課題に応じた話合いや討論などを行うこと。</p>	<p>ア 情景や心情の描写を取り入れて、詩歌をつくったり随筆などを書いたりすること。</p> <p>イ 出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書くこと。</p> <p>ウ 相手や目的に応じた語句を用い、手紙や通知などを書くこと。</p>	<p>ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。</p> <p>イ 文字、音声、画像などのメディアによって表現された情報を、課題に応じて読み取り、取捨選択してまとめること。</p> <p>ウ 現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を読んで内容を理解し、自分の考えをもって話し合うこと。</p> <p>エ 様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。</p>
国語表現	<p>ア 様々な考え方ができる事柄について、幅広い情報を基に自分の考えをまとめ、発表したり討論したりすること。</p> <p>イ 詩歌をつくったり小説などを書いたり、鑑賞したことをまとめたりすること。</p> <p>ウ 関心をもった事柄について調査したことを整理して、解説や論文などにまとめること。</p> <p>エ 相手や目的に応じて、紹介、連絡、依頼などのための話をしたり文章を書いたりすること。</p> <p>オ 話題や題材などについて調べてまとめたことや考えたことを伝えるための資料を、図表や画像なども用いて編集すること。</p>		
現代文A	<p>ア 文章の調子などを味わいながら音読や朗読をしたり、印象に残った内容や場面について文章中の表現を根拠にして説明したりすること。</p> <p>イ 外国の文化との関係なども視野に入れて、文章の内容や表現の特色を調べ、発表したり論文にまとめたこと。</p> <p>ウ 図書館を利用して同じ作者や同じテーマの文章を読み比べ、それについて話し合ったり批評したりすること。</p>		
現代文B	<p>ア 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。</p> <p>イ 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。</p> <p>ウ 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりすること。</p> <p>エ 文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること。</p>		
古典A	<p>ア 古文や漢文の調子などを味わいながら音読、朗読、暗唱をすること。</p> <p>イ 日常の言語生活の中から我が国の伝統と文化に関連する表現を集め、その意味や特色、由来などについて調べたことを報告すること。</p> <p>ウ 図書館を利用して古典などを読み比べ、そこに描かれた人物、情景、心情などについて、感じたことや考えたことを文章にまとめたり話し合ったりすること。</p>		
古典B	<p>ア 辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較し、その変遷などについて分かったことを報告すること。</p> <p>イ 同じ題材を取り上げた文章や同じ時代の文章などを読み比べ、共通点や相違点などについて説明すること。</p> <p>ウ 古典に表れた人間の生き方や考え方などについて、文章中の表現を根拠にして話し合うこと。</p> <p>エ 古典を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果を発表したり文章にまとめたりすること。</p>		